

# JR四国土讃線沿線の地名を利用した観光開発の可能性

水 谷 昌 義

Possibilities of Tourism Development using Place Names  
along the Dosan-line of the Shikoku Railway Company

Mizutani MASAYOSHI

現代ビジネス学科, 現代ビジネス学部,  
安田女子大学

## 要 旨

鉄道の駅には住所があり、その所在地の歴史を保存している。鉄道企業者が監督官庁に提出する事業基本計画には設置した駅の所在地が詳細に記載されている。過去にJR全駅について所在地を悉皆調査した記録に基づき、四国のJR線の駅の住所を調査した。徳島県や高知県の住所には今でも字名のついているものが多く、その字名が独特のものであることにも気づく。

本稿では、土讃線の徳島高知県境付近の駅についての魅力的な字名に注目し、新たな観光資源としての活用の可能性を提案する。

キーワード：事業基本計画、字名、土讃線、三好市

## 1. 事業基本計画

鉄道を営業する企業は、監督官庁である国土交通省鉄道局に対して、事業基本計画を提出する。事業基本計画は、各鉄道事業者が全ての事業設備の現状と輸送の見込みを報告したもので、これを見れば企業の事業内容のすべてがわかる登録簿のようなものである。駅についても、開設しているすべての駅について所在地も番地まで詳細に記載されている。行政文書として監督官庁の現場で日々使用されているものであり、自由に公開されているものではない<sup>1</sup>。

筆者は「停車場変遷大事典」1998[14]の編集委員として、同書編集集中に運輸省<sup>2</sup>鉄道局に連絡を取り、JR各社の1987年4月1日以降の事業基本計画を閲覧する機会を得た。当時はまだ情報公開法が整備されておらず<sup>3</sup>、行政文書の公開は事務担当者の判断を頼りとするものであったが、書籍の編集趣旨をよく理解してくれた担当者の協力により、事務室の端にあった打ち合わせスペースを使わせてもらって縦覧することができた。現業に使用されている行政文書であるから、時折、担当者がやってきて「ちょっと使うから返して」ということが何度かあった。そしてこのときに、記載されている駅の所在地をJR全駅について手書きで書き写し、同書[14]に掲載した。

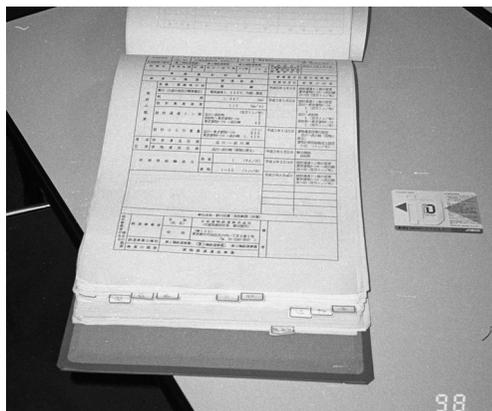
Tab.1 四国旅客鉄道の所在地に字名のある駅一覧

線名	駅名	住所	字名	
予讃線	詫間	香川県 三豊郡詫間町大字松崎字浜715番地	浜	
	箕浦	香川県 三豊郡豊浜町大字箕浦4の松975番地	4の松	
	中萩	愛媛県 新居浜市大生院喜来578番地	喜来	
	伊予横田	愛媛県 伊予郡松前町大字横田財神99番地	財神	
	伊予市	愛媛県 伊予市米湊字安広830番地	安広	
	向井原	愛媛県 伊予市市場字打田甲822番地	打田甲	
	伊予出石	愛媛県 喜多郡長浜町大字上老松字成前甲789番地	成前甲	
	五郎	愛媛県 大洲市五郎大谷甲1469番地	大谷甲	
	千丈	愛媛県 八幡浜市大字郷字ムカイホリタ3番耕地	ムカイホリタ3番耕地	
	双岩	愛媛県 八幡浜市若山2番耕地34番地	2番耕地	
	立間	愛媛県 北宇和郡吉田町大字立間字引地二番耕地121	引地二番耕地	
	伊予吉田	愛媛県 北宇和郡吉田町大字立間尻字ユリノロ甲495番地	ユリノロ甲	
	高光	愛媛県 宇和島市高串字漆ケ窪2番耕地176番地	漆ケ窪2番耕地	
	伊予大平	愛媛県 伊予市大平字滝山甲556番地	滝山甲	
	内子線	内子	愛媛県 喜多郡内子町大字内子駄馬甲107番地	駄馬甲
予土線	西ヶ方	高知県 幡多郡西土佐村大字西ヶ方字馬引田478番地	馬引田	
	江川崎	高知県 幡多郡西土佐村大字江川崎上高2613番地	上高	
	半家	高知県 幡多郡西土佐村大字半家字野地187番地	野地	
	十川	高知県 幡多郡十和村十川字サカウズ86番地	サカウズ	
	土佐昭和	高知県 幡多郡十和村昭和字ヘヤガ谷526番地	ヘヤガ谷	
	土佐大正	高知県 幡多郡大正町田野々字旭田241番地	旭田	
	打井川	高知県 幡多郡大正町打井川字宮ノ脇1549番地	宮ノ脇	
	家地川	高知県 高岡郡窪川町大字家地川字赤木原127番地	赤木原	
	徳島線	石井	徳島県 名西郡石井町石井字石井355番地	石井
		下浦	徳島県 名西郡石井町浦床字下浦122番地	下浦
牛島		徳島県 麻植郡鴨島町牛島字池田66番地	池田	
麻植塚		徳島県 麻植郡鴨島町牛島字西崎1580番地	西崎	
西麻植		徳島県 麻植郡鴨島町西麻植字西知18番地	西知	
阿波川島		徳島県 麻植郡川島町大字桑村字春日北761番地	春日北	
学		徳島県 麻植郡川島町大字学字吉本8番地	吉本	
川田		徳島県 麻植郡山川町川田字槻原64番地	槻原	
牟岐線	小島	徳島県 美馬郡穴吹町三島字小島289番地	小島	
	中田	徳島県 小松島市中郷町字長手13番地	長手	
	西原	徳島県 那賀郡那賀川町大字大京原字木園1182番地	木園	
	阿波中島	徳島県 那賀郡那賀川町大字赤池字上角169番地	上角	
	阿南	徳島県 阿南市富岡町字今福寺65番地	今福寺	
	桑野	徳島県 阿南市桑野町大字桑野字岡元4番地	岡元	
	新野	徳島県 阿南市新野町大字枝字信里7番地	信里	
	阿波福井	徳島県 阿南市福井町字中連86番地	中連	
	由岐	徳島県 海部郡由岐町字東地73番地	東地	
	田井ノ浜	徳島県 海部郡由岐町大字田井原田759番地	原田	
	木岐	徳島県 海部郡由岐町大字木岐字本村544番地	本村	
	北河内	徳島県 海部郡日和佐町北河内字本村148番地	本村	
	日和佐	徳島県 海部郡日和佐町大字奥河内字弁財天250番地	弁財天	
	山河内	徳島県 海部郡日和佐町大字山河内字なか35番地	なか	
	牟岐	徳島県 海部郡牟岐町大字中村字本村141番地	本村	
	鯖瀬	徳島県 海部郡海南町浅川字鯖瀬口67番地	鯖瀬口	
	浅川	徳島県 海部郡海南町浅川字イチ150番地	イチ	
	阿波海南	徳島県 海部郡海南町大里字持田10番地	持田	
	海部	徳島県 海部郡海部町奥浦字一字谷24番地	一字谷	

高德線	造田	香川県	大川郡長尾町造田野間田698番地	野間田
	板野	徳島県	板野郡板野町大寺字平田64番地	平田
	阿波川端	徳島県	板野郡板野町川端字中坪8番地	中坪
	板東	徳島県	鳴門市大麻町板東字辻見堂	辻見堂
	池谷	徳島県	鳴門市大麻町池谷字柳本100番地	柳本
	勝端	徳島県	板野郡藍住町勝端字東勝地364番地	東勝地
	吉成	徳島県	徳島市応神町吉成字轟57番地	轟
鳴門線	阿波大谷	徳島県	鳴門市大麻町大谷字前場8番地	前場
	立道	徳島県	鳴門市大麻町姫田字新田8番地	新田
	金比羅前	徳島県	鳴門市撫養町木津字町南912番地	町南
	撫養	徳島県	鳴門市撫養町南浜字権現4番地	権現
	鳴門	徳島県	鳴門市撫養町小桑島字前浜28番地	前浜
土讃線	坪尻	徳島県	三好郡池田町字西山立谷2486番地	西山立谷
	箸蔵	徳島県	三好郡池田町字州津宮の久保855番地	州津宮の久保
	佃	徳島県	三好郡井川町字西井川1201番地	西井川
	阿波池田	徳島県	三好郡池田町字サラダ1840番地	サラダ
	三縄	徳島県	三好郡池田町中西字ナガウチ245番地	ナガウチ
	祖谷口	徳島県	三好郡山城町下川字東506番地	東
	阿波川口	徳島県	三好郡山城町大川持字中ハシ596番地	中ハシ
	小歩危	徳島県	三好郡山城町西字カリヤ579番地	カリヤ
	大歩危	徳島県	三好郡西祖谷山村字徳善西6番地	徳善西
	土佐岩原	高知県	長岡郡大豊町岩原字コミ2番地	コミ
	豊永	高知県	長岡郡大豊町東土居字ヲモイデ182番地	ヲモイデ
	大田口	高知県	長岡郡大豊町大字船戸字東田26番地	東田
	土佐穴内	高知県	長岡郡大豊町字貴入道1983番地	貴入道
	大杉	高知県	長岡郡大豊町中村大王字下ヨコイシ1686番地	下ヨコイシ
	土佐北川	高知県	長岡郡大豊町字川崎1929番地	川崎
	角茂谷	高知県	長岡郡大豊町字角茂谷1214番地	角茂谷
	繁藤	高知県	香美郡土佐山田町繁藤字南カイゴヤ37番地	南カイゴヤ
	新改	高知県	香美郡土佐山田町東川字エノキモト2256番地	エノキモト
	山田西町	高知県	香美郡土佐山田町西本町一丁目字西野溝南884番地	西野溝南
	土佐長岡	高知県	南国市西山字西利岡丸944番地	西利岡丸
	土佐大津	高知県	高知市大津字寺添甲558番地	寺添甲
	布師田	高知県	高知市布師田字スミ田2418番地	スミ田
	薊野	高知県	高知市一宮字藤川ヶ枝1099番地	藤川ヶ枝
	円行寺口	高知県	高知市西新屋敷字兵庫113番地	兵庫
	旭	高知県	高知市旭駅前町字カグソ1551番地	カグソ
	高知商業前	高知県	高知市上本宮町字月の輪670番地	月の輪
	枝川	高知県	吾川郡伊野町枝川字スミ澤763番地	スミ澤
	波川	高知県	吾川郡伊野町波川字コヤガイケ1502番地	コヤガイケ
	日下	高知県	高岡郡日高村本郷字米神の前284番地	米神の前
	土佐加茂	高知県	高岡郡佐川町加茂字保木屋敷660番地	保木屋敷
	西佐川	高知県	高岡郡佐川町字垣添2060番地	垣添
	佐川	高知県	高岡郡佐川町字寺中1046番地	寺中
	襟野々	高知県	高岡郡佐川町字横田1231番地	横田
	斗賀野	高知県	高岡郡佐川町大字東組字ガハナイゲ1285番地	ガハナイゲ
	吾桑	高知県	須崎市吾井郷甲字未清687番地	未清
	大間	高知県	須崎市多ノ郷甲矢羽田305番地	甲矢羽田
	安和	高知県	須崎市安和字六分一256番地	六分一
	影野	高知県	高岡郡窪川町影野宮の前甲268番地	宮の前甲
	六反地	高知県	高岡郡窪川町大字下呉地字岡谷15番地	岡谷



Fig.1 事業基本計画のファイル

Fig.2 事業基本計画の内容  
(JR東日本東海道本線品川～浜川崎間のページ)

当時すでに多くの鉄道関係出版物が発行されていたが、版を重ねている中央書院編集部2000 [12]などの資料でさえも、駅の所在地に関しては番地までの記載はなかった。駅に番地があればそれまで載っている事業基本計画を出典とする所在地の記載は、後にも先にも [14]のみである。もちろん、<sup>おおあざ</sup>大字レベル（地方自治体名の次のレベルの町名や地域名など）よりも細かい<sup>あざ</sup>字が使用されていればそれも記載されており、特定の時期の全国の駅の所在地の完全な記録として、今尾2017 [2]などにおける地名研究にも貢献できている。

## 2. JR四国の駅の所在地の字

四国には珍しい字名のある住所を持つ駅が多いことに気づく。表1に、JR四国の266駅のうちから字名のある所在地をもつものを [14] から抜粋して挙げた(1987年4月1日現在)。その後平成の間に町村の合併が相次いだため、現在の自治体名とは異なるものも多い。大字何々字何々と完全な表示になっていれば明らかであるが、そうでない場合、地方自治体名の次のレベルの地名が大字名なのか字名なのかはよく分からない。「日本国有鉄道停車場一覧」1985 [13] では原則大字までの所在地が掲載されており、その所在地と照合することで、字の有無を判別した。また、大字レベルの地名の後に続く一文字だけの甲や乙などは、番地の一部分と見做してリストからは省略した(15駅あった)。

字名は原則として小さな区域を表す地名であるから、字名が鉄道の駅名になることは少なく、リストに挙げた約100駅のうちでは、徳島線小島、牟岐線鯖瀬、土讃線角茂谷の3例だけである。小島は明治時代から穴吹の町域であった三島のなかの小地名が駅名になった珍しい例である<sup>4</sup>。

字名の大部分は、農地の場所や目的、その土地の地形の特徴や目印を示している。しかし、リストの中には今や意味の分からないものも散見される。特に徳島県から高知県にかけての土讃線沿線には不思議な地名が並んでいる。その地域での特殊な呼称に無理な漢字を当て嵌めて作られた地名の場合、後年になってから意味を探るのが却って難しくなることも多いが、この地域にはカタカナのままの地名が多いのが特徴であるから、地域の歴史と照らし合わせることで意味の解明が待たれるところである。

## 3. 三好市池田町字サラダを訪ねる

Tab.1のなかで目立つ字名として土讃線阿波池田駅の「サラダ」がある。池田<sup>ちよう</sup>町には徳島線と土讃線との連絡駅である阿波池田駅がある。2006年に周囲の町村と合併して三好市となるまでは三好郡池田町として、三好郡のいわば中心であった。その池田町の市街地にある字のひとつが「サラダ」である。



Fig.3 土讃線阿波池田駅

町の中心部分なので、商店街や役所、金融機関などがあり、四国銀行の店舗案内パンフレットでも字名が記載されている。銀行は所在地を省略せずに律儀に載せるようで、池田支店以外でも字名のある所在地が目立つ。

○☆311	小松島支店	773	小松島市松島町13-45	08853-2-4141
	コマツジマ			
○	313 羽ノ浦支店	779-11	那賀郡羽ノ浦町大字中住字磯ノキ743-3	0884-44-3140
	ハノウラ			
○☆321	鳴門支店	772	鳴門市撫養町南浜字東浜294	0886-85-7171
	ナルト			
○☆322	松茂支店	771-02	板野郡松茂町広島字宮ノ後7-2	0886-99-4655
	マツシゲ			
○	325 藍住支店	771-12	板野郡藍住町東中富字長江橋示13-15	0886-92-7311
	アイズミ			
○	317 土成支店	771-15	板野郡土成町大字土成字寒方54-8	0886-95-4411
	トナリ			
○☆331	阿南支店	774	阿南市日開野町簡路15-1	0884-22-2111
	アナン			
	333 海部支店	775-03	海部郡海部町奥浦字新町53	08847-3-1333
	カイフ			
○☆341	鴨島支店	776	麻植郡鴨島町鴨島466-2	0883-24-2125
	カモジマ			
○☆342	石井支店	779-32	名西郡石井町石井字石井438-1	0886-74-1144
	イシイ			
○	344 山川支店	779-34	麻植郡山川町字南川213-1	0883-42-4141
	ヤマカワ			
○☆351	池田支店	778	三好郡池田町字サラダ1776-5	0883-72-1255
	イケダ			

Fig.4 四国銀行 営業店のご案内 1996年4月30日現在 徳島県の一部

サラダに隣接する字名は、マチ・シンマチ・シマ・イケミナミ・ウエノなどで、土地の性格や地勢が想像できるものが多いが、サラダはそれらに比べて異色である<sup>5</sup>。

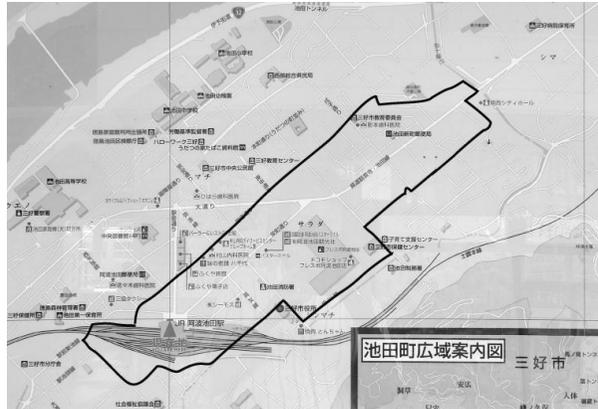


Fig.5 三好市池田町サラダの概形（図中の縦線の間隔が1km）

三好市への合併にあたり、池田町字何々(大字なしの字)は三好市池田町何々と住所表記が変更になったため、もともと池田町字サラダだった地域は、現在では三好市池田町サラダが正式な住所となっている。もともと大字なしの字ではあったが、字に固有の独立した郵便番号(778-0003)も附番されている。尤も、他の字と同じ番地の場所はないので、三好市池田町のあとにすぐ番地を書いても郵便物は届く。

Fig.6は阿波池田駅にある駅周辺の案内地図である。きちんと字名も記載されている(画像を丸で囲んで加工)が、サラダやウエノの文字がその位置では、それが書かれているところの大きな建物の名称と誤認してしまわないだろうか。すなわち、フレスポ阿波池田というショッピングセンターに「サラダ」という名前がついているように見える。それほど、これらのカタカナ字名は平凡すぎ、もしくは異色すぎるのである<sup>6</sup>。

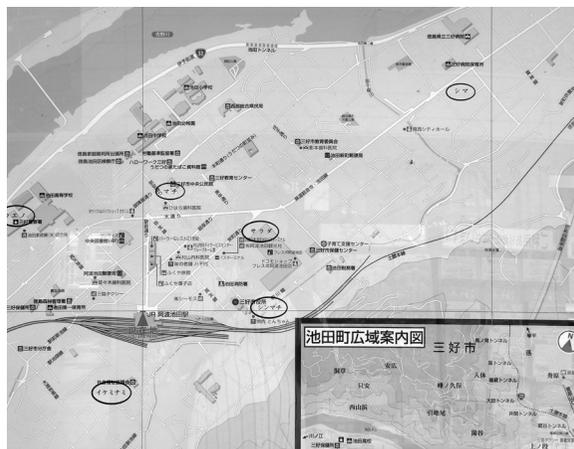


Fig.6 阿波池田駅の周辺案内地図

実際に阿波池田駅前の街を歩くと、サラダをはじめ、マチやシンマチなどの字名はどれも現役で使われていることが確認できた。



Fig.7 池田消防署



Fig.8 池田消防署の郵便受け



Fig.9 合併前の旧住所表示をした民家

地元の人々にとっては、駅の案内地図の表記の仕方をもってしても、サラダという地名に特に違和感もなく使っていることが窺えた。

#### 4. ヲモイデを訪ねる

Tab.1のなかでもうひとつ目立つ「ヲモイデ」という字名をもつのが土讃線豊永駅である。思い出の旧仮名遣いは「おもひで」であるが、カタカナでワ行のヲがあるのが印象的である。地名としての意味は不明である。

Fig.11を見ると、南国市や池田町の支店所在地には字名が記載されているのに、豊永にはなく、現地では少なくともこの時点で大字名の東土居までしか使わなくなっていたようである。ただし、JR四国の1987年提出の事業基本計画には掲載されていた住所である。



Fig.10 土讃線豊永駅

㊦	南国支店	ナンゴク	068	㊦	④	8:45~18:00
	〒783 南国市大楠甲1445番地					
	TEL(0888)64-0551 FAX(0888)63-6233					
㊦	豊永支店	トヨナガ	021	———	④	8:45~18:00
	〒789-01 長岡郡大豊町東土居218番地4					
	TEL(0887)75-0231 FAX(0887)75-0959					
	池田支店	イケダ	044	㊦	④	8:45~18:00
	〒778 三好郡池田町字マチ2203番地の9					
	TEL(0883)72-1125 FAX(0883)72-6696					

Fig.11 高知銀行 こうぎん店舗のご案内 1996年4月17日現在 一部抜粋

阿波池田から1時間ほどで行くことができる。実際に現地を訪れてみた。駅舎はキャンプ場のロッジのような建物になっていた。駅付近には30軒ほどの家があったが、どの家の表札も郵便受けも書いてある住所は大字までで、字名の確認はできなかった。

駅舎の中にも、ここの地名を強調するような掲示等はなかった。上手な広報次第では、このような田舎の小駅にも大勢の観光客が呼べるのではないかと、勿体なさを感じつつ駅を後にした。

### 5. 地名は観光の材料にできるか

地域に人が安住できるような地場産業がない場合、人々は生まれ育った土地を捨てて生活のために他の地へ出て行ってしまふ。日本の各地の多くの場所で起こっている現象で、今も急速に地方の過疎化と大都市への人口集中が進んでいる。有力な産業があれば、今の時代、不便な地の利は克服でき、町の将来は安定的である。一方、産業のない町が、町の存続のため最後に打って出るのが、「町おこし」を謳った観光客誘致であろう。その土地に客を満足させる自然・文化財・驚異のいずれかがない場合、観光客の誘致は難しい。産業がない町では、集客を叶える観光資源を何かしら考えることになるが、文化財は早計には用意できないので、それ以外のものを売り物にするしかない。幸い、わが国には自慢できる自然がそこかしこに存在している。

しかしながら、地元で暮らす人ほど、自分の暮らし身近にある自然の素晴らしさに気づかず、驚異に頼る方策に出でがちである。どこぞのゆるキャラが受ければ、どこもかしこ代り映えしないゆるキャラをつくり、コンサルタント会社の言いなりになってイベントを開催する。何もしな

かったときに比べればいつときは来訪者が増えるかもしれないが、「お祭り騒ぎ」に誘引される人たちは、誘蛾灯が消えれば全く寄ってこなくなる。

井出明2018[1]は、産業としての観光に次のような意見を呈した：

ある地域が観光に活性化の緒を求めるということは、それだけ基盤となる他の産業がないことを意味しており、多くの場合“最後の賭け”のように観光に期待してしまう。しかし、観光マーケティングはかなりテクニカルなものであるとともにハイレベルの知識を要求されることに加え、実は理論上正しい展開を試みたとしてもなぜか成功しないという例もままある。

観光は流行り廃りの大きい、一筋縄にはいかない、非常に難しい産業なのである。そんななかで、近年うまくいっているものに「秘境駅ブーム」がある。2001年に牛山隆信[3]が出版されて以来、「秘境駅」という、うらびれた鉄道駅を訪ねるといふ観光習慣がおきている（[4], [5], [6], [7], [8]などが続刊されている）。そもそも駅が設置されるには何かしらの意味があったものが、時を経るにつれその本来の目的が失われて置き去りにされたものが秘境駅になる。秘境駅の代表格に挙げられているのが、土讃線の坪尻駅である。周辺に民家がなく、現在の鉄道車輛性能をもってすれば不要なスイッチバックという設備を今も保っていることが受けているようだ。こちらも阿波池田から1時間もかからずに行くことができる。



Fig.12 現在の坪尻駅



Fig.13 秘境になる前の坪尻駅 1980年  
(今はなき側線が見える)

秘境駅はSNSの興隆と相俟って、記念写真を撮るための観光客でにぎわっている。この坪尻駅は、駅に通ずる車道がないため、写真を撮るだけのために来るのにも鉄道を利用することになる。それは鉄道会社としては悪くはないことであろう。しかし、車でのアクセスが便利な駅では、多くの客は車で秘境駅をピンポイントに訪れてそれこそ写真だけ撮って帰っていく。もちろんそのような客は一度そこを訪れて写真を撮れば満足し、再びそこを訪れることは皆無である。なぜなら、そこには客を何度も呼び寄せるようなものが何もないからである。

当初は秘境駅を趣味の対象としておもしろがっていた牛田であるが、旅と鉄道編集部2018[10]所収の文のなかで秘境駅ブームを最初から今までずっと見続けてきた人物ならではの考えの変化を以下のように述べている：

人々が去るには、去るにふさわしい理由があり、これを鉄道ファンというフィルターを外して直視しなくてはならない時期に来ている。鉄道会社側から見ても、長年にわたって赤字体質から脱却できないローカル線を経営するには、単に“モノ珍しさノスタルジー”に頼ることに限界があろう。冷静に考えれば、地域の産業が廃れ、人々が去ってしまったことで生まれた形態のひとつが「秘境駅」だ。それを「町おこし」と称して、商業的に観光化することが本当に良いことなのか？（[10] pp.16-19 牛山隆信2015秘境駅は生きている）

“基盤となる産業がなく最後の賭け”としての観光化を意識しているところはほとんどないであろう。“モノ珍しさノスタルジー”ではリピーターの獲得は難しい。だからといってイベントを開いてみても、“モノ珍しさ”を出すには費用が掛かりすぎてそれに見合う効果は得るのが難しいだろう。もちろん特徴のないイベントではそもそも客はやって来ない。

さて、地名、なかでも字名というものは、いまから新たに付けることのできない特別なものであるから、ぜひ大事にすべきものと考え。とくに、平凡な地勢の名称でないものは、地域の由緒由来の謎が隠されていることもありうるので、現時点で意味が不明であっても葬り去るべきものではない。自然は破壊や偶然により失われることがあるが、地名は人為的な破棄以外では決して失われることはない。

サラダの地にある阿波池田駅、ヲモイデという地名、そしていまのところ好調な秘境坪尻駅はそれぞれ近距離にあり、鉄道での移動は容易である。

阿波池田から豊永に行く途中には大歩危峡の自然もある。大歩危祖谷温泉郷やかずら橋といった観光スポットもあるが、こういった昔ながらの観光地は、昔ながらのやり方にあぐらをかいては将来にわたっての繁栄は続かないであろう。例えば、大歩危付近では土讃線は吉野川に沿って走るが、木が茂ってしまい、川の溪谷美を楽しむことがほとんどできない。枝打ちをして車窓観光の価値をあげるなど、観光客を迎える側の意識改革が必要である<sup>7</sup>。しかしそれは最低限必要なことにすぎず、井出の論が述べるように、正しい展開を試みたとしても成功する保証はないのである。

そこで新たな観光開発を考えたい。近距離に並ぶ偶然を利用して、観光地の新たなポートフォリオを組めないだろうか。多くの観光客誘致が、ひとつだけの売り物を頼みの綱にしていることに較べれば、多彩な要求に応えられる材料のそろったこの地は幸運である。あとは上手に材料を組み合わせて、多くの観光客を満足させ、再び足を運ばせるような観光開発を開始すべき時期である。

健康やダイエットに興味を持つ人にはサラダは魅力的に響くだろう。サラダを提供するなら次から次へと手を変え品を変えて用意することも容易だし、利益率も高い。ヲモイデは記念や標しるしを好きな若いカップルにも老夫婦にも訴求力があるだろう。秘境はいまのところブーム好きの人た

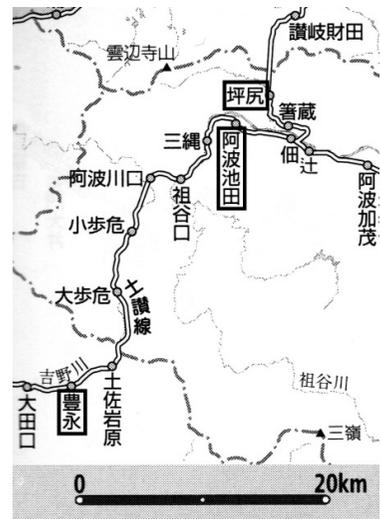


Fig.14 3 駅的位置関係（[11]の図に加工）

ちへの受けがよい。

秘境駅の盛り上がりと前途の不安、大歩危観光の持続への努力、そして新たな地名関連観光の開発で、記念写真派もモノ珍し派も健康派の一般客も呼ぶことができるだろう。多方面の客層をターゲットにできるこの材料を放置する理由はない。

## 注

現地取材は2019年8月

写真はすべて筆者撮影（無断転用禁止）

1. この基本計画の主要部分を抜粋したものが、「鉄道要覧」として年刊で発行されている[9]。
2. 他の省庁と合併して、2001年1月国土交通省になった。
3. 情報公開法(行政機関が保有する行政文書を一般に公開することを定めた法律)は2001年4月に施行された。
4. 鯖瀬は駅の近くの、空海に関する伝説のある海岸の名、角茂谷は一時的に土讃線の前身となる鉄道の起終点が設けられた場所の名である。
5. 地名の意味を市役所や図書館で尋ねたが決定的なことはわからなかったが、マチとシンマチに挟まれていることから、新しく開墾された田を意味する「更田」ではないかと想像できる。
6. 駅にあった案内図の右下部分の広域図Fig.15では、山間部の字名が一般的なのに対して、駅のすぐ傍に書かれているサラダが何を表しているのかわからない状態である。



Fig.15 阿波池田駅の周辺案内地図(広域図)

7. 山口県の錦川鉄道では、乗客が錦川や滝を見やすいように、余計な樹木を地元の人も手伝って伐採している。鉄道会社だけで行うべき仕事ではない。

## 参考文献

- [1] 井出明, ダークツーリズム 悲しみの記憶を巡る旅, 2018, 幻冬舎.
- [2] 今尾恵介, 番地の謎, 2017, 光文社.
- [3] 牛山隆信, 秘境駅へ行こう!, 2001, 小学館.
- [4] 牛山隆信, もっと秘境駅へ行こう!, 2003, 小学館.
- [5] 牛山隆信, 栗原景, 秘境駅Ⅱ, 秘境駅Ⅲ, 2008-2009, メディアファクトリー.
- [6] 牛山隆信, 秘境駅の歩き方, 2013, ソフトバンククリエイティブ.

- [7] 牛山隆信, いま行っておきたい秘境駅, いま行っておきたい秘境駅2, 2014-2015, 自由国民社.
- [8] 牛山隆信, 秘境駅跡探訪, 2017, 自由国民社.
- [9] 国土交通省鉄道局監修, 鉄道要覧, 年刊, 電気車研究会・鉄道図書刊行会.
- [10] 旅と鉄道編集部編, 秘境駅の謎—なぜそこに駅がある!?, 2018, 山と溪谷社.
- [11] 旅編集部編, JR乗りつぶしマップ, 2003, JTB.
- [12] 中央書院編集部編, 駅名事典, 第6版, 2000, 中央書院.
- [13] 日本国有鉄道旅客局編, 日本国有鉄道停車場一覧, 1985, 日本交通公社翻刻.
- [14] 水谷昌義, 高山拓志, 浅野明彦, 石野哲, 停車場変遷大事典 国鉄・JR編, 1998, JTB.

[2019. 9. 26 受理]

コントリビューター：清野 聡 教授 (現代ビジネス学科)